地域ボランティアプログラム①
松木日向緑地プログラム

「竹林整備」報告

2019/1/12

竹 林 整 備

1月12日（土)、本学の敷地内にある松木日向緑地にて、2019年最初の竹林整備の活動を行いました。

松木日向緑地プログラムからは、3年目（リーダー）の学生が1人、2年目（サポーター）の学生が1人、1年目の学生が4人の合計6人が参加しました。

・竹林整備

この日は、教養科目である「多摩の里山学」の実習と一部合同で行いました。プログラムのメンバーが、里山学の受講生に、のこぎりやヘルメットの着け方など装備の説明とサポートを行うところから始まりました。準備体操を終えた後、いよいよ活動に入っていきます。

この日のプログラムメンバーの活動内容は、次年度の夏に実施予定の水鉄砲大会に向けて、水鉄砲の材料となる竹を準備することでした。普段の活動では、太くて大きい「孟宗竹」ばかり切っていますが、孟宗竹だと水鉄砲には太過ぎるため、今回は「真竹」を切ることになりました。松木日向緑地の竹の多くは孟宗竹ですが、13号館の裏手辺りには、一部、真竹が生えています。ひなた緑地遊学会の方から孟宗竹と真竹の見分け方を教えていただきました。真竹は、節の輪が2本あるとのこと。見ただけでは分かりづらいですが、触ってみるとたしかにボコボコと２つの線がありました。そして、孟宗竹よりも細く、緑の色が青々としていました。

自分たちで真竹を見分けて、水鉄砲のピストン側とシリンダー側の2種類を概ね均等に準備することを意識して、竹を切っていきました。約100セット分ぐらいの準備ができたのではないかと思います。雪が舞う、とても寒い中での活動でしたが、1年目のメンバーもすっかり慣れた手つきで、次々と竹を倒していました。真竹は、細くて軽いため、いつもよりも切るのも運ぶのも楽に感じました。

切った真竹は、リアカーに載せて倉庫まで運びました。倉庫で保管し、夏になれば、これらの竹を使って小学生たちと水鉄砲を作ります。自分たちが切った竹が水鉄砲になり、それらで遊ぶことになるのかと想像すると、愛着が出てきて感慨深く、今から楽しみになってきます。

最後に、里山学の受講生に緑地新聞を配布し、プログラムの活動を紹介したり、2月9日（土）に予定している「里山保全ボランティア体験会」の案内を行い、感想を共有しました。里山学の受講生は、今回、初めて竹を切った人が多く、「こんなにも大変な作業だとは思わなかった。ボランティアの人は慣れている感じで、すごいと思った」「疲れたが、良い運動になったし、楽しく、やりがいを感じたので、体験会にも参加したい」などの感想が聞かれました。里山学の受講生にも、ボランティア活動に興味をもっていただけたようで嬉しく思いますし、合同で実施したことで、お互いに学び合えた有意義な場になったと思います。

次回は、首都大生向けの「里山保全ボランティア体験会」です。身近な里山である松木日向緑地や、その保全活動の魅力や意義をプログラム以外の学生にも感じてもらえる場にしたいと、メンバーたちは現在、話し合いを重ね、準備を進めています。

真竹と孟宗竹の見分け方を教えていただいています

真竹を伐採している様子

水鉄砲用に切った真竹

孟宗竹の節

真竹の節

最後に全体で振り返りをしました